畫本錦之嚢
全

溪齋先生畫圖

畫中錦之囊

全本一冊

職巧雛形
錦綉畫叢

攝陽書肆　群玉堂版

前北斎為一筆

画本龍之巻

全一冊

諺曰畫ハ仙術のごとし心に欲する処忽目前に
状を顕はすの自在なれバ変神得妙と
いひつべし予屡東都なる溪斎ぬしと文書交
知己なる事を以て今丁亥の春江戸の趣の序
草廬を訪ふて綉梓の画を催促せば机下に
一鶴本北有餘者多く数を問ふ「」諸職業を
粉本の為に画とし雛形の下画
形の巧拙を手に入んとすと主人嘆然として

職巧雛形
錦俅畫叢

漢画の筆意実き和画の墨色うるハし元各細工の為に
わらず亦浮世絵ハ流行に随て賤く当時の劇場狂言
めきたる絵なるより論なく元ゆゑさらに実に初心の者の
據なし看のの愚筆の拙き浅陋をわらさし只図工を得る
為にせんと書肆の老婆心を九牛の一毛にも当る画にもあ
らんかし

一
近頃巧人机下に来り図を求るもの幾多なるをもて因て
雛形にとりし元を残まてり今書肆の需に応じ発市する
もの画法に至すして製工者の料理を以て出まてる由也

文政十一年戊子春新鐫

小町

六歌撰

大黒

陶淵明

盧生

唐子あそび

蛙
蟷螂
蜻蛉
蟇
船虫

蜂
松虫
馬追
鈴虫
螽
蠼虫
蝉
蝸牛
寫眞の虫

立波ト衛

老梅

李白
紅葉
諫鼓
人丸

藻出の鯉
萬歳
御殿
高砂

佐野の雪
常世
鍾馗
山水

錦のふくろ
雪夜
公時
地紋錦
草摺引

龍田川
浦嶋
鞍馬山
雨中の牡丹

蜘蛛
布袋
住吉
都鳥
七夕

胡蝶
野馬
雁

夏木立

時雨

薺の花

鶴

春野

站船

俄雨

達磨

鸚鵡
大根
ぶどう
鷹

三保

雪わり草

小原女

秋風

鮮魚

月下歩

樂器
鳶尾
福壽草
古器

彫物狀

唐の釵

金鳳釵

芙蓉釵

面花釵

釵の製品種類多し

重陽

二千年

牡丹

萬々年

加茂

夕㒵

枕慈童

八重撫

千なり

金魚

椿

朝顔

水仙

紅葉賀

龍門

蜃氣楼

秋野七草（あきのゝなゝくさ）

すゝき　はぎ
あさがほ　くず
なでしこ
ふぢばかま
をみなへし

春之七草（はるのなゝくさ）

せり
なづな
ごぎやう
たびらこ
すゞな
すゞしろ
やまとの産

銀釵
差込細工の平板にも用ゆ

きく

山ぶき

つばき

ひるかほ

らん

あさかほ

おしろい

八重桜

ひとへ桜

さくらの実